

# 施工手順 (WD-L1.1~L3.8 ハット型根太用 鋼製束)

この「施工手順書」は、施工者の方用に、基本的な手順・注意事項をまとめたものです。  
 施工される現場の状況により、条件等が変わる可能性があります。ご不明な点があれば、お問合わせ下さい。  
 尚、束ピッチ・根太ピッチ(大引ピッチ)、端部納まりなどの下地納まりは「デッキ下地マニュアル」をご参照下さい。

ツカ・カナモノ株式会社

## ① 材料の確認



設置場所・設計図面に合せて材料をご用意下さい。

## ② 根太位置の墨出し



床面に根太位置の墨出し※1をします。

※1 墨出し・・・工事中に必要な線や位置などを床や壁に表示する作業。

## ③ 現場の勾配確認



水勾配が有る場合は、事前に測定を行い、設計図面通りかを確認します。  
 (選定した鋼製束の調整範囲内であることを確認しておきます。)

## ④ 根太に罫書き



根太に鋼製束の受プレート取付け位置の罫書き※2を行います。

ハット型根太の上からネジ止めを行いますので、根太の上面端部に束位置を記しておきます。

## ⑤ 根太の取付け準備



鋼製束に根太をネジ止めていく前に、鋼製束の高さを均一に合せておきます。  
 根太両端の設計束高さが同じ場合その高さで均一にしておきます。  
 (本締めは未だ行いません。)

## ⑥ 根太の切断



鋼製束に仮置きして、必要寸法を罫書きして根太を切断します。  
 ※2 罫書き・・・材料に線や目印を描き、(けがき) 穴あけの位置を決めたり切り出しやボルトの位置を決める(記入する)作業

## ⑦ 根太の取付け

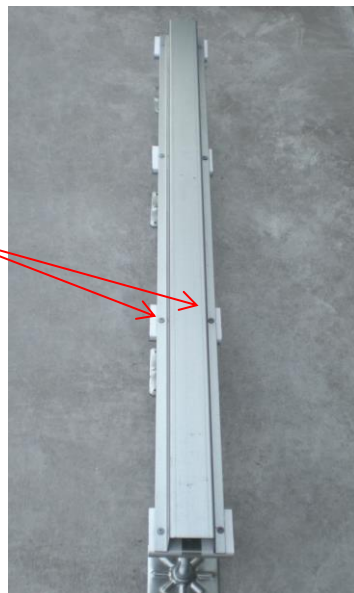


ネジ止め

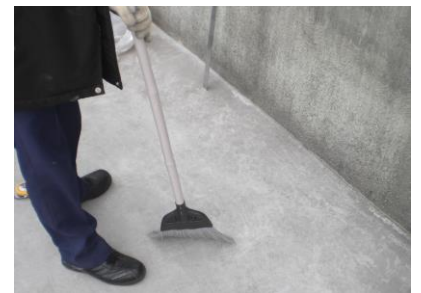
ドリルビス  
なので下穴  
不要

均一な高さの鋼製束に根太を置き2本~3本の専用ネジでネジ止めていきます。(通常は2本使用)

右写真の矢印の様に、両側中央部に1本ずつネジ止めます。



## ⑧ 床清掃



鋼製束を設置する床面の周囲をあらかじめ清掃し、ゴミ・ホコリ等を除去しておきます。

②の根太位置の墨出し線を消さない様に注意して下さい。

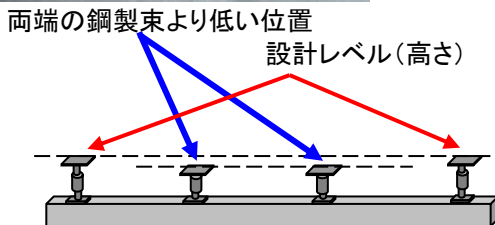
# 施工手順 (WD-L1.1~L3.8 ハット型根太用 鋼製束)

## ⑨ 鋼製束の高さ調整



根太の両端の鋼製束は設計高さに合せ、内部側の鋼製束はそれより少し低い目にしておきます。

⑤で両端の高さで合せている場合は内部側のみ調整します。



## ⑩ 接着剤の塗布



全ての鋼製束のベース裏面にボンド「エフレックス」を約20g塗布します。

【屋外用接着剤 推奨品】  
ボンド「エフレックス」(コニシ製)  
(カートリッジガンをご用意下さい。)

## ⑪ 接着剤で貼付け(両端)



根太の両端の鋼製束のベース面を床面にしっかり接地させ、接着剤が外周部から少しハミ出すくらいに広めになじむ様に押し付けて下さい。

## ⑫ 接着剤で貼付け(内部側)



内部側の鋼製束のパイプを回して高さを合せ、⑪と同様に、ベース面を床面に接地させ、接着する。

パイプでの調整 時計(右)回り:高くなる  
反時計(左)回り:低くなる

## ⑬ コンクリート釘で釘打ち



接着剤による浮き上がり防止・養生までの固定補助の為、コンクリート釘を任意の対角に2本打ちます。

釘サイズ: #12×25または19  
(釘を打てない場合は養生期間をとる)

## ⑭ レベル確認



鋼製束の本締め前にレベル確認を行います。

鋼製束の高さを微調整する場合は水平器を根太に置いて確認しながらパイプを回して行います。(水系でも可)

パイプでの調整 時計(右)回り:高くなる  
反時計(左)回り:低くなる

## ⑮ 鋼製束の本締め

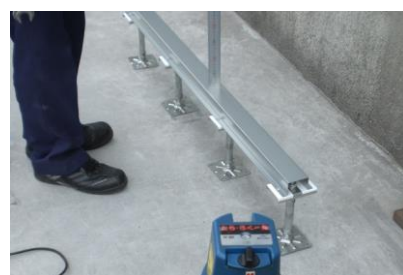


レベル確認が完了し、鋼製束の高さが決まれば、上下の六角ナットを本締めします。

写真の様に水平器を置き、水平を保持したところで本締めします。  
(21mmスパナ2本でパイプの角付け部を一方で押えつつ、もう一方で上下のそれぞれの六角ナットを締めます。)

本締めの際は必ず工具をご使用下さい。

## ⑯ 最終確認



最終のレベル確認を行います。鋼製束の本締めが全て出来ている事も確認して置いて下さい。

以上で「デッキ下地材(鋼製束・根太)」の据付けは終了です。

デッキ材の施工は、各デッキ材の手順書に基づき施工して下さい。